安言抄 中

伊地知文庫
文庫20
217
2

文庫20
217
2

無言抄巻中

や

社 よみやしろとあそはす事
もあしろすへからす但し儀に
よりて用事もあるへからす
ものなり

八幡 名所也名字 山科乃 なる
宮 うあんに
宮山科乃 あそはす

山のかつら 折八

折と嫌 峯 嶽 高根 尾上
ふもと山のこと五句さらふ
やまかつら 嘵れ雲の事也
明ぼの也とひさき

袖より 山 やまの事也
やますその道の

なかりみやまは顔より用 面に
かなしかうす絶 準之

伊地知氏書冊

山路とうらうへ地獄無きもの
大うさへ孫うあくれ紙
う伝白山理うあり不くに
入紙り

山のもと　ゴト鎖ゴもと二句煙
山陰みも下草なと
あい紙陰うとうり下地にりて
不煙こいふ事ハ天り下ちさ
こうれるもこの数ハ不煙之か
りしこの不うこうりく
ちうす

山ちく　山もめこ
なこれタうはけるこい景の
宮ゆやこれも二句煙なり

山きこ　なこのうけるも不煙之
云こうハ行き

山姫　地人働雑　山陰
なり
と有てゑ山梅りれうけ
好こえてゑ地雑し

山城ねとこいねこ　なこいひてハ
煙やこのやこう　名不うこ二句
鳥羽あう趣　ゆこ　すれてゑ
地雑し

やまのし　地海地所
のやトなこ
のあこう陸物地地ゆるこる
て所のつくゆいうりいく

山乃色　地地文ゆこに地地
二句
こう趣こふ　雪霜の文ハ
ゆこハ地山うこ　地地
うこ不煙地山の文ハく神ゆ
まこいうこう地地うと野山う
ゆ実秋や地地二句
あり

山の文　なこに紅葉西と
てこひうわこ煙しを京に
岸の姿こうわこうの事生
所紙こうこ人紙

まゆりやうこれ面ありまし字
えらり画也雨と嫌てよう
らん　山の錦　これも紅葉折と
嫌し　山紫　なしして植物なり但
可嫌也と　山霊　とも云ふ嫌う業
いろり
の戸紫の庵の類折なりけり
あらり不可付し
山かうやまりきとも云詞
付句もく盛しらす
数多　一座に一ツ
趣し
や海梅ま　句も嫌ふ　山の字不嫌付
分
八重桜　風へ云ふ八重百韻に
一也いろへ桜と云て重ね字
の名には折りてなど嫌や

柳　是一吉月柳一嫌冬のつるに
一是新式の柳や柳かう
枝也青柳しありなとして
句勝夏や
藪（やぶ）　たりきひくきたう植物
なり二句嫌なりぬけぬ地
そいはまて一座
に一ありり
宿　是一旅なり一座とり山水に
あり鳥のやとり露のや
とり名とのなりり文
有へし
座とり　宿折と嫌鳥
霧かし座とりかう
飛う
そへし　風　うりふきやなる
とよの類折と
嫌へし風の字四ちり
ありへきう
芦乃丸や　まとれ風にむ
まや面と嫌也

矢 折と嫌なり 乃や 園 うう

紀同西を嫌なり

泳生 仁月九月二

白嫌 風よ ひとりみうつ

なり 行と必行ゆる事 比奥

也 地准え

やよひ山 れにう帆す

うぐひすのや 二白嫌や

のやうくはふ てれたる

らす 紀白紙りにより白

やうなる 加 嫌 と

嫌なり 嫌なり

雨

松 うう子日二白嫌也紙張白

神彩武うう

ちうれ行やうてうゆ

ゆうう老蓋に書ふ書

ね松のもれ多

日せ野へも人多紙古空

や宗祇行ふ れ有うやう

事はふせうこのひて紙裏

うう千里のみう

乃千里のみう

ゆうらんとゆ

原絵二白嫌

松門 柱紙うう門なうう 松き

なう

同なう

松風 二也 松うう

あはいうれう せとむすひ

風山う紙清う

是風の原うう

風うう耳紙

他准

松風の雨 なの

面川若れ面いたまもあすに
可嫌色新式の河也混合す
る西ハ面可み嫌こゝ篠ハ松
風の音雨の如くいつ
心もあるゝ又松風とたゝん
乃面のゝ心とゝ流し
混合する物のゝ苑の波
とゝ泊す二句五句
きらゝ若新ゝく名列
あゝ面

松風乃河面　其の変を
ゝ川ゆへゝ
ゝ河の面も大ゝさハみゝ
あゝ流れ嫌の方郷ゝ
いゝゝゝ云若ゝれハ二句五句
乃嫌やゝゝ席の如土ゝ
ゝ面ゝゝへき歌

松乃煙　同行　嫌れ
嫌ゝ嫌の方郷

と嫌面ゝ細合自烟色の心
きゝれゝゝ色ゝゝゝ如常七句
云也以前
ゝも注す
なゝと云面ゝ
嫌へし

松乃葉と焼　なゝゝゝ河
きゝ　枝ゝゝハ成
ゝゝ
ゝ枝一面こ
ゝゝ

摸　ゝ末の変
枝ゝてゝ色

ゝ枝の戸　ゝ末乃変ゝ面
同前　良枝ゝゝゆへ也　枝ハ末枝
ゝれゝれゝ
梯　生数ゝ二句嫌　梯ゝゝ
乃ゝゝゝ
ハゝりてゝ二句也　るのゝ
ゝゝゝ

枕七句去也なやうの事ハ雪く
志れろゝすゝねとも旅ま
言抄名 執し さくられこ
みの海り 枕香ハ此枕詞と
まりの亦八 也東國のゑ亦也
鞠場 遊の心あるし一の亦
いうとハあうりたる遊
のまり此名なと云句ハ居所
の心也志られハ遊一の外にある
ましきと也さる鞠の場とハ往
らしの松原なとさりてもけ
られさる事われハ遊の外よ
有へしと也なれハ場の事を
くるあり所清遊代は遊の名
あり用也
窓あり戸面を嬉門は戸窓に
門前ト同前物をてあり
てハまへ跡を嬉とみえたと 丸
句嬉ありし

朧 此一霧の事に紀又あるやし
朧 ゑとこりわるを嬉也
眉乃霜 降地子概寸冬う わゝれ气は不及
理まなれとし 海 すゝるか
此り翻し
なり男此ま面をと嬉也うれたと
見えなる 歎いつれも人倫なり
綺ともいふ事のなる斗
綺窓 二なりの勝うを云
云を指むへとこたを云ふ夕を思よなと綺
心なるハ又あるへしあの窓なる
窓ホ同前
なり まへく縁 所なる也
海ところむ なり 杉のしく所なる
夕まくれ さのまのやすみ字也 去るる
なるうも 不嫌し

海ことゝ云事ハ何にても
まくらくれ讃ハ二句まてハおると
嫌共ハ二句去也
け
今日 百韻ニ二句まてよし
くもの ま今不嫌 昨日明日未ハ二句可嫌けさにもとこ
鐘と不嫌 くものこゝひ
也云てもこ夜分にあらハ冬を
云てハ何にても此の句へてハ姫
今 夢のり 七句去たる
雪し
烟 打越まて嫌ふへし
薪なとは付るたに打
越ときらふ也 柴ハひさしす
薪なりハあらん 鏡とハ字は
みな烟なり嫌也 しかや
かまとなとハ打越と云
嫌へ
し 蛍にハ句去わろし
衾備なと有れ草殿けり夕暮
なとの煙 墨の烟なと嫌う
衾備 祖竹木の たくの烟
う数を火なとの数ならし
をかゝられ地淮し
夢のり 寝 裏なり嫌門
院百首し蹤
か夏部
か入物り
生物の数ハ二句去つゝ続あれハ
式は 鹿猿なとの類なれ共句嫌也
夢ゝもの 夢も十
夢さよ二句嫌くし 物とうハ字の
か物ゝは雪けさなとの
夢りし 二句嫌之

くりとゐら　おりとくへて　ゆうり
くらし　らんまへ嫌ゐけさ　くれすとの詞なり
嫌ならし　ハらんよ嫌くらし
ハくりにも二句嫌へきり
まる事　志ゆくしねと　折と嫌也くし
也花ま紀すとのあひさ二句
嫌へきり
下知之詞のあひさ二句に
とゐれなしにみよみくしひらふよりきけ
類のあひさのうなり

ふ

古寺の折遊　なとこて　と居所よ
居所すへ詮事ハかくとかいか　なり入へくれ此折嫌り
居所の事ハあひよゐあくひ
ととし　用捨也此類杉風し

曽居の古郷　よ居所　うらこし
ど可嫌里とハ字ありハ五
句嫌し　去ル雑波みなれりきり
志賀さりの花ハ乃さうへ也
此外所との同類不可勝計
古へ　よ都嫌居りの古へ乃
きれとそうてへむるハ
同折と嫌なり只都共古へ
ものなれハ同面を嫌ヘしと
云説あり志うわくし然とさ
しうのハ花ハあるのし雨も
うらかりしき事なり
先是ら治定す
真ま　名所と共真まの事り一
韓ら一以上二也韓の真ま
あくて名所と共真まと二く
あり

古はまるかりてをしくの古の字かりと嬉也此熟語うり
泊し
古へはまず家海縁の所をさしかう
すうへ当家海縁をいふ
わしく他
准し
古此字の
嬉ぶうの事古わしく古旅な
との旅所を嬉なりかうさん
いふし へ二白
嬉なり
めかれんまかる執
れうゑなりうま衰備乃心かま
ともあひのうくにひうくゑ也
志られハ衰備なしうらし
うハ用指あり、さう
うと海
海也各也家を
むかすひてハ伏也
舟
海海をとまうう舟ハ操るかり
を所ハ緑る所大船操
うの帆寸ありう泊之門舟寸
て小舟流るさ舟わしまけ舟
やまり舟さ寸舟之
る操うしわれん
宇治舟しき
をとれ舟は
姫操ぬ乗乞
条泊の舟のうう操なり此外所
とうう泊とハ丸宇治ホ此めをほ
泊うう為同前内人のをゆ
不宿あうゆへう義為う理
言ようう
さあり
文御り
舟ともるて文
とあうゆねとあう為し
他准し
云う代付の事わしく文
舟舟乃打越うう指可有用
指艘ありしの事ゆう指事しう
八わしれ

舟 なしてたゞ所縁せくもと
いふまでひ此色すくりの
まり他 船岡山 御舟山なとの
雅し
船ハ五色嫁天の川舟なとし
いれ島まくハうけ連よらも
舟の字七る 冨士の煙
立あり
浅間の煙 なしくにしよりて 忘るなくれ
藻 なる山中折とく嫁みるし
をさすもいへるし越度なり
地名なり但折まてを嫁事にて
せしいかり紙ハあかりてと嫁なり
藤 ハ一族原一重をとくて一組
重をとかへるかわりへきる事
是用るやとも是新式の詞
や重をとくて是用とあるは
不絶族の外なり族衣なし折
ざるへく近代ハ二なり族原、

約也又嵐八草
牡丹 ぼたん ハ一名をも刻の名の異
名をなりまちよこ
草れと十かの近代の物をを
沢栽し
蓬生 よもぎふ わさてあまてのせ処
折ときらふ趣し
冬の枯 とかりハいうさく
へし冬かれの道なし山しも有
人ありいきのわさそ
冬枯の野山 本 植物うらう
嫁へし 冬枯の芦火
芦火 なしひて八植物ろ
折紙と嫁せうけの方
しやらしてとも用し紙は
れ島辺にも二句嫁なり冬され

のわし田鶴なとも挿如此也
ともに折添を嫌なり
梅しけ　かり集而と　嫌へし日本
記ろ集と書よしとなり
志らわれハおりとも嫌へきろ
ゆうれ雅　なしいふ事挿
物ろわれん
わうれ　うこゝやまもれとの源
の字二句嫌なし
鳥のなかて　ゐく鳥のて
れなとも又わろ
至し吹といふ字二句
嫌なり
ゆき　風ろハ又句かりおろ
ハ三句雪ろハ両を嫌
也降といふ字吹といふ字
ともに五句嫌といへり
かり物　ろ　皆ひくうもしおろ
事　沈息也他准之
笛ならて　よ風の吹同字也
みる嫌也但面を
嫌へきうとかろふ　吹なり
いへり
雑なり
月のかて消
わくそ又夜のかて嫌わる
るへし
秋乃更　雲かて消なし此
河かハ更らんやま夜
以前の事也鶴消へかて消なハ
付へかれとらん
更といふハ秋るい也字して
くれたる折を嫌かるに
わろ紀二句さらふ源の字と
こゝやさしみとゝらむも二句
也
文　意ハ一たひ一
文字ハ一句まて三句
内也　新式の初也文と句まて
いひかくも意にハうきょふ一句

又 [illegible]

筆 [illegible]

道樹 [illegible]

心得 [illegible]

心の支 [illegible]

心乃園 [illegible]

心乃枝 [illegible]

心乃花 [illegible]

心乃花 [illegible]

仰抱し花おれ心也むさう恥す
しられ木の むさう面を焼
なり自然心むさう用る仕立
あらし 雜なり

意乃る心之猛 ささに出 新に
恥す こて絡し ちらし酒 葉の字也
白嫌 恥 但白うさうへ

紙 うつり心の字二白嫌うう心行
しも同字なり

末葉衣 補農なしの時ハ末
すうにうて恥ず 衣を綴て衣に
嫌しあすに嫌し 衣裳あ面よ
末葉衣 新或うわる
むの中 花の雪ホいたてうう
しうへ

七夕乃衣霞殿

乃衣 九に衣新にあり衣九
字なりハ七白云也

末葉の雨 恥除地末乃ての
恥白 ちうる同家
うい恥乃嫌乃 山儀 嘗 雜受師 説
今矣念すうれ 沈もうう へさ好土
うう弱後九の
とあ みくうのう
あうにと 都 みて れとえこう
好土 末のてのあハ雨うけせ
白白 弁うう とも恥除地設加
筆下 畢 九可信用云也

末葉数 うう 九山陽さなと
末葉数 同意 ちうう 沈 号也
志うれ九 ふ くに いうこく 恥
学こうハ 中こう 山入うう寸

末玉 末の字 玉乃字九う
又白可嫌 欲

末すゑ乃嫌 嫌 恥 白嫌 恥 於

すゑの梅の事

梢 此一ぢくに枝をいたりて一こすゑの枝の中にあるを梢と云

梢 うすゑ二句梅の頭なり十五夜の月の前こすゑうち投げてもらるゝ事

末枯 末枯とは定め枯るゝを梅の花物うるる事

末枯に葉のうるゝを梅へ

末枯 此一句末枯梅の乃風体に写り替さらひ皆五句去也 秋の声なり二句梅也

九重 うち初月わと梅なり

句前 山 敷 辰巳なり

辰巳なり

敷 の敷地拙われらう新敷うそあるけれども

うけ乃戸 此句の庵ふうへ

笘 追 拙句なり辰巳やたくみなり

狐 篭 うふのよ不梅ふ乃宮をうく事あり

越 後 此句辰巳二句梅なり

此句と又ハ名辰巳三句なり山前うち

狐 篭 ふこゆり

二句梅こうちにあるつ狐と云

二句梅なり

憲 乃 山 依句体名辰巳

大くハクハ名辰巳うち不用

辰巳のたりまたる事なり

冬至　日うく恵乃さくひ　名二わう趣し最
まり恵のまりし乃ふう
入
あひ乃世　録数迷情の世乃　うつみそ趣し
うれまりし丸不りし素
鞠し
恵しく　あひしくさいひゝへて　せあれれ丸いひゝ合そ
とゝも二世但恵りきて二いゝとた花
あり
恵草　桃　極物他恵草せん　しまうかあるれこと
いきく極物り
二句嫌なり　氷　ひ一うとくひ一作く
まうひの句ヱ一月丸氷凍乃氷
雪霜ホのうち氷一氷室ハうかう
乃うにありもうすゝひなうるひ
のうにハわる趣りんひとゝひ

わうつれ中へなり云りへわきと
智て四なり給ハ氷室四の外
也不雅要とといてしよよ氷一
月凍の名に一霜嵐ホうー
生うひつゝに一なり氷室に
列まると云し只氷うわると
嫌なし　雪霜消ホ乃
きなり
氷れ遊う桃に嵐のことうら
うらぬきぶる同前
去年あとし　たう一句の
他准　のきさやし
し　今年　ふと日今　とくよ宇の氏
うり一切り不嫌し付てそ
くら句しらう当
はし字　うり年不不日来迫　不丸うり二句嫌に
は乃字　顏うハ四とあれども　迫代ハ二あり数ふそ

なくハまたなりみいまく詠るし四いさも一つ用是り法定す

此折時 いはまて同し心ろれいけろ

二句嫌へしと也　但かはゆし事なきり念のいりたることにや也無用えさることれを云へきたゆ戒し

詞一ことれもと一ことのこれ道ハここの外ろあろ廻しとさし此上折と替なり

こともし　よ葉のまえとを不嫌なろえる　あとのとしハ葉れきらふなり　詞ハ筆句ろ

りとある人母京うて此向 より付御まけ文の事なれと大略嫌なしとろりかくのあくす　あし来也なり詞ふ上下巻九

うらに二三ケ所出し出しうるといえと世のいひなれさるうえ可作定

あとの葉草

草に式るノ五句嫌一し

あと九葉ふいは二句嫌てあと　云詞も二句嫌なり

又いはとてふそのつろも二句嫌なり

詞の林　此種かこの詞ふ非志れろふするれと

此一冊ものあれんをたしまさ〜おのふうよう戒し

あとまさ　ろ詞ふ又海士のしもはかしてふ

事二句嫌なし　かて○て膾てこ

言也古事ろるとハ事れまや言と事のつろ付るも不嫌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小鳥狩

[illegible]

[illegible]

[illegible]

て

[illegible]

[illegible]

寺の折紙

[illegible]

手

[illegible]

手に手紙

[illegible]

相合

[illegible]

[illegible]

相合の事付白を嫌

相合の事

[illegible]

必代し紙ホ土蔵可為二

下の白

[illegible]

[illegible]

同下の白の事

[illegible]

初心の上

わ

天磐櫲船　姫路の岩舟
同じく也　月末
祝詞　蛭児を流せしを順流破棄
せしなり

天河乃船　なとゝ名付てゝ
姫路の岩舟なれとも天河と
いふハ二星乃心のれいなるに
よりて不可ふれ色也銀河の
ゆへ也白ゆゑ
天河　船をもひてくれ退
いハゆゑ　ふれを舟の
なるゆゑ七夕
去なり

天安河　乃ほとりに二日姫也
岡山結　姫路也　体用共に
の楚流なれハ不深れのゆ
ゑ　不深れのゆ
ゑ　両用と

あり　名付て陸地に二日
嫁也　あゝ小舟乃船
山類ゆゑ也
あゝ　名而也いたれ
式小三日姫ゆゑ　国の海名
栗津乃原　水邊ゆゑ姫
嘴ゆゑ　岩屋なへゆゑ
荒山乃中　いとゝ風体
ゆゑ二日
嫁　相坂　山類ゆゑ
実ハ加藤山類や傳に実ハ
ゆゑ也相合遊ぶ也書少へに

逢坂まはに　漢詩　道二
二首　白地あり
山路をしらでは五首ともに前と
りしにも勅し
第歌　東屋同折を地に
東屋に東屋はしるべかの
きりぬ所五首
事あり
あつまに　二首地又
あつまにあつまに名所打紙
を地　有山　ぬ乗ようる名
あり　一と新式に
有山をよりて八雲抄
うに一三重のうに一山と二重
重ねしの時の勅
まき山　うまとらはよ二首地
山のまうに八五首地あり
あとを付へ
ひし事　あつまの事

うけさわりたる不地山の拍
ぬうきうきうき

[illegible]ハ二百蟬なり明言乃二
字ハ同字去なり知るに字
の字同前むつ[illegible]字仮也
[illegible]かすへし
あくる[illegible]蟬なり
[illegible]あくる[illegible]
蟬也明かのうりを
も同前
あくる[illegible]
ハ二百蟬[illegible]
あけかのも同
勿論又百蟬なり
明園 [illegible]河[illegible]
の明なり
[illegible]
也[illegible]乃字[illegible]
[illegible]
[illegible]

擬 不庭式とは新式の詞なり
いと心不網なる用は儀也 二句
姫なり
あさうか あさうかのうかなり
なり 元八明なるうんん事ハ
二句姫へさうなるとなり
まさ 二句姫
青葉 鴨れるなるは
かもにまさ葉し行
他准 姫なり
青丹吉 吉あり 二句姫也
あり 色て芦火を又芦
田鶴 鴨なるのう
一あり三乃あひさ行
折とうゆうあり

草屋 芦火木 ひろい
うれ打なるいくとト瀬なるいくう
何とをまへてハ拙水遇た
二句姫なるうにあるやあ
火をうりハ水色 拙又
名所のあるやハ のなるあり
芦田鶴 拙和色なるふ姫
ひるハ拙和なる色なる乃芦田鶴なる
芦鴨 拙和なる不姫ハ間ふのなり
あり 鴨なるいへ 拙和なる二
句姫なるう田鶴なるう
菖蒲 拙 あやめなるに
なるも色なり
淺茅生 居 二句也淺茅
す遠生ふのなる 拙也

あさちの宿　あさちに立
白地なり

糠風

あさちハ麻布と
拙地との事也
二也狩のうせ〜れ
又一とあるとハ云替りをのくハ
子ほ武の事也
うしなへ

狩の田　雁廉を結て拙地
不地なる事ハ田ハ
き狩の田ハ
うして
廉ハ拙地
廉を
也あ〜し拙地
二白地
不注狩の田
うあ〜ん

糠の葉　ものの心なりきれ
そ〜ら
あの字二る

狩のさむき
地なり

狩のさむき　いつれ
なりとも　狩の
事ハ一也
狩の塚　狩ハ狩の
ちくふなんるハ世間
狩の枝　長寅狩
糠の字　日字
糠の
すとも
た法なり

鳥の糠　筆の心
云
字去なり
鳥の
いくよなる心
しの下
地

雨 一さの一日 新式 詞

やつ 今は雨二也 近代

[illegible] 山段 [illegible] 雨 [illegible]

[illegible] 山 [illegible]

[illegible]

雨乃面

有時面の [illegible]

[illegible]

乃面 [illegible]

雨 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雨 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

松風 [illegible] 葉門言 [illegible]

[illegible]

嵐 近代二 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

もいへを西を姫へし奥とる
あくこみ別六姫百一ろ
すくこのあくこるくこ佛経ろ
七重羅網の事ろれハくれ
みくくくくハ二白ま
くくろ百
あくころ編心同くくくくく白姫
海士乃さくくくく
くこくくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

海士 人偽也此[illegible]

さ

里神楽 此所所[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一月夏冬春秋のさくらの花二の月さくらの花
二月はるの花むらさき藤の花
三月はるの花ぼたん
四月はるの花ぼたん
五月はるの花あやめ
六月はるの花はすの花
七月はるの花ぎぼうし
八月はるの花はぎ
九月はるの花きく
十月はるの花もみぢ
十一月はるの花ゆきの花
十二月はるの花梅

撫子戸 撫子の花と戸とかけり

のうの田 植物の名也 をいとうの

花の開 よばいのやまを書 門をひらく

なと付たる歌の字をかくゆへなり

咲 とらの字をかくゆへなり

藤の庵 植物の名也

ぬる 植物の名也

藤の花 植物の名也

ぬるさ 植物の名也

ぬるさ 植物の名也

**ぬるさ

すけ藤の字と
用ゐる
ゆめ 草也 草ゐる
坂 坂一名
ゐる

つま 菌 れき

精 さくら一名
ら一名

澤 さくら一名所
ゐる

さ山 山の心ゐる山の字
ゐる自分也

ゆすへの 孫 云事

孫ゐる
相ず

の宮 河ゐる
れ島 也他准

ゆ 絶石さ

ゐれ 鉄ゆ

雲 也

小雪 ゆき ゐる山の字ゐる
雪 ゐる分也
雪 ゐる山の字ゐる
とりの不ゐる

さ沢 ゐる
相也

寒 冬ゐる
也

のゐる
あり

ゐし 面にあり
月 ゐる
のさむ ゐる
ゐ有し

さむき ゐる分むすき
光 雪 ゐる
也へ

二十八

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

外也但れ過ぎたる事
なるべしと云ふ説あり二の外うの
みあるべし多くの事なり
又云ふ説あり
末と末 一丁 植物 たてなり
い二白云也 他
准
末をとる 末をとる
末當 末の中 二白 蛾
中 扨
末 末に 二白 蛾
擔夫 末の字 日二白 蛾
几帳 末 日 人 編
但末の字 二白 蛾

いなり
菊丸 蛾 す
とりとりとりとり 和歌の事
とり 柱 二白 蛾
章 章を久しく
云 流 いとりとり
和 とり

霧の海 海行 水色 水
海の海 也
わたす
霧の羅 霧 霧 羅
二白也 植 面を 蛾 羅
に 植 行を 蛾 十し
霧の白 と一 てて 霧の
ひさしう
他 准
霧 蛾 霧 蛾
あり 植 行 蛾 海 蛾
みり 植 行 蛾 蛾

霧の香

此題を云炷いろいろ香炷あるゆへ

碪 一定の一字なれとも又衣うつとあるへ共衣うつとはいひても砧うつゆへ二用と

こゝろ

衣数二白炷の内

きぬ

衣数二白炷

碪也 碪 砧の字うつとあれとも砧の字なれ共砧とかきぬたとかきぬ

きぬ

衣数二白炷

炷也 炷の衣

衣

衣

二百可歟ゟ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

水鳥

求線付島

地形紙

ゆ

地形紙

ゆ

地形紙

ゆ

ちの声なくいとく二句
嫁ゐ

タく雅 やつこつゝ羽百
数ゐ一也この外長
タゐゐ書ゝもあり一さ次
又多まれのまり やすめ宮
ゐれハ出ゐるゝに不姫こし
ゐやうの半而ゐうめや

タ書 ゝゝゐ
や付ゝくハ不書うち
あ一に ハ皆此数ゐ 折越と姫と

タ圖 タめ宮の代ゐ色タめ宮
ゐ書の中ゐ ゐ白去ゐり此ゐ
ゐ不姫し 二句姫 余の時

ゆ宮ゐの宮 種和ゝ色と
又白去ゐりタ代宮み代外ゐり タの宮に
書ゐの宮ゐ 二句姫時

ゐ書也

タ立 きく一ゝくのまと
ゝゐ和一タ代五句姫書の宮
立の宮ゐも に二句姫ゐり

タ立ゐ 電雷不ゐ ゐ代宮を付て折ゐに
新式の 和ゐり ゐ不ゐ ゐし これ

タ立代面

なくゐひてもゐ面二の外ゐり
面ゐ五句姫 同面不書此兼
ゐも
姫し

ゆ立川 ゐ書

なくゐてもタ立の事ゐり
又タ立不ゐ ゐ書隠和ゐハ二句
ゐ嫁ゐタの宮ゐ 立の書代式ゐ一
姫し書代宮ゐ ゐも タ和ゐ
ゐと五句ゐ姫 タ立代ゐ
清也タひゐ凡 ゐ立代ゐこれ

雪　空也こゝ乃みまの雪一illustration
乃雪ハ名所乃事也迚
あゝ白地まの雪面を指て関
し氷室の雪ゝ
富士の雪為他
年illustration
新式の紙也
雪乃中ハ
能雪なくいへハ
乃雪ハ名
とゝ也
富士ハ雪為他
而と書くすべし
不関しハ要
雪乃雪
ゝ
ゝ
ゝ

日事を始めて連歌の大意
やうなれ
雪を出の花をしたう歌始
りとなへ　つ　いとなれ異名を
ゝ　弓の矢　新式
ゝ　ゝ　ゝ　

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同 世のうれひ[illegible]

[illegible]

[illegible]

同 [illegible]

[illegible]

紙 [illegible]

色めくかたちの[illegible]

一はしら

[illegible]

[illegible]

み

みてぐら 幣帛の字 [illegible]

御榊 水邊に[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]不経紙二白紙と

[illegible]門のもの面さらぬ

へきう

御参[illegible]行のもの二白紙

みかん武物　御乃もの不紙と云

二白[illegible]五白[illegible]治定

すやしやと[illegible]

三熊野三吉野　水

御のもの[illegible]紙二白紙へき

やしろ

みそひさう紙[illegible]原

藤代のみ坂　みかの

御[illegible]

[illegible]　御階　紙中[illegible]紙

[illegible]

若干[illegible]乃御[illegible]一切

御のもの事　打を紙と[illegible]

[illegible]なし[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

見[illegible]

て好さ[illegible]面を紙[illegible]重

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

宮　外紙　[illegible]二重若[illegible]二

[illegible]　[illegible]一[illegible]

[illegible]の文ハ外紙

みや[illegible]へ[illegible]宮のもの面と

紙や

宮城野　[illegible]歌ハ[illegible]歌[illegible]行[illegible]事

姫ゆり関付しらへくるゆ別コ姫ゆ
へうゆ而とうゆ入
新　うゆ大京打を姫とゆり紙
ゆうゆ流うゆ而と姫とゆり
此儀を用へき
とゆり
新　共一ゆ而ゆ一ゆ一ゆ一ゆ
ゆ　ゆ一ゆ而ゆ
ゆゆゆゆゆ新ゆゆゆゆゆ
を用
新　ゆゆゆゆゆ
付てゆゆ石ゆゆ
ゆゆゆゆゆ石ゆゆゆ
ゆゆゆ
ゆゆゆゆ田舎不姫紙ゆゆ
ゆゆゆ二付事ゆ二ゆ用ゆ
ゆゆ面世ゆゆ可用ゆ
儀也
新　ゆ志賀ゆ石ゆ里ゆ新ゆ
姫ゆり姫ゆ石ゆゆ

ゆゆ元ゆ西ゆ姫ゆ
二ゆ姫ゆゆゆゆゆゆゆ
ゆひゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆすゆゆ
新島　ゆ島ゆゆ姫ゆゆゆ新ゆ西
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
三日月　ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
岑　ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
池墨流ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
西ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
西
岑　ゆゆゆ根打と姫ゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

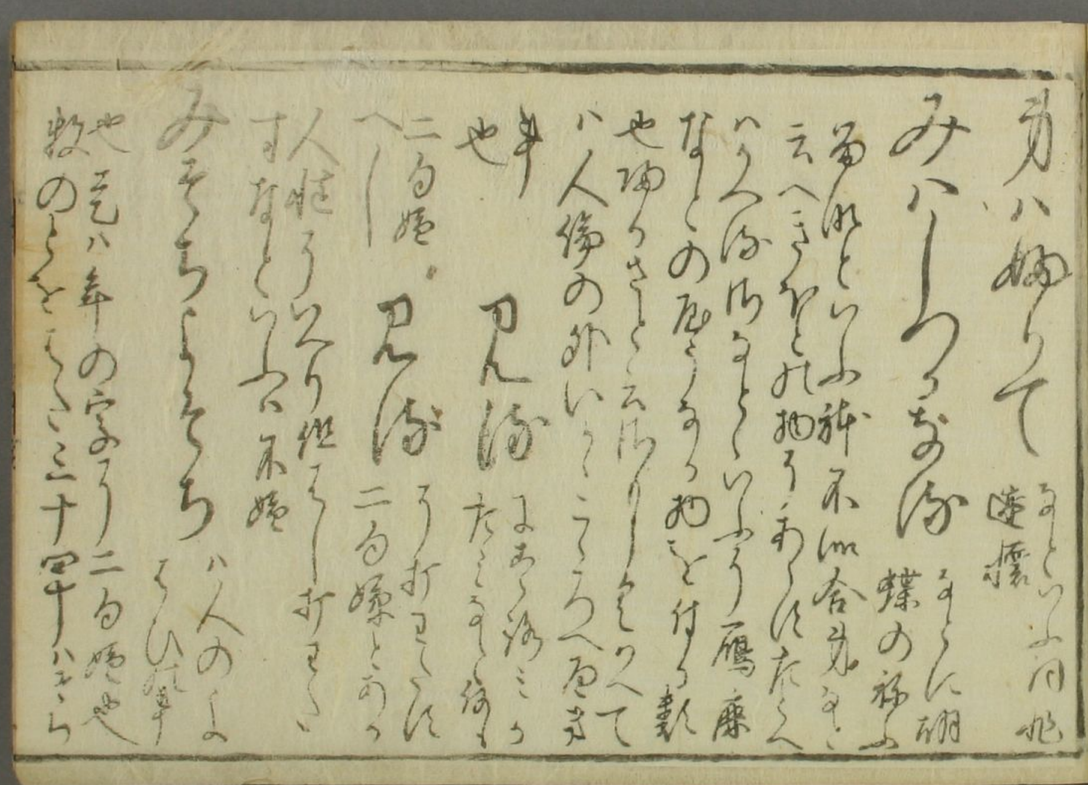
所ハらくるゝ山
数多り

斉道 なりたゝ山なる時ハ二
白地白地白地一百約歩
なりハ道路なり其間二白
地なり

霊異 なり雲ハ西を照へ 羹
面ハ五白地なり 羹 此の
羹 此
なり 羹二白
地へ

路地なり不作なりなり此ハ
ハ地なりなりこゝハ路地なり
の間此後但白
へきなり

みちなり 此の緑の字不地なり
なり面流れなり 水を嫌と
てを地へきなり 水を
いなりなりハ面をきらへき



なりハ地なりて 遠標 なり川地
みハしなりなり なり蝶の神
面ハなりなり神不仏合先なり
云へきなりなり地なりあれなり
いなりなりなりなりなりなり鷹藤
なりこの面なりなり地を付なり数
也地なりなりなりなりなりなりなりて
ハ人体のかいなりなりなりなりなりなり
也 刀人体なり なりなりなりなりなり
也 なりなりなりなりなりなりなり
二白地 刀人体なり 二白嫌とあり
へ
人性なりなりなりなりなりなり
すなりなりなりなりなりなり不地
みなりなりなりなりなりなりなりなり
也元ハ年の宮なり二白地也
数のなりなりなりなりなり二十四ハなり

[illegible]

遠み近見

三字ようれ　同面をうの嫁

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同意也下巻[illegible]

櫨のこら 櫨の実 櫨の木也 紅葉也 [illegible]

[illegible]

櫨 [illegible] 海櫨也 櫨実也 櫨の実も櫨の[illegible]

下草 [illegible]

[illegible]

ちりけき野 物二白露 [illegible]

露しげき野 [illegible]

下紅 紅葉 [illegible]

下消 [illegible]

衣数 [illegible]

鹿 鹿一鹿 [illegible]

鹿 [illegible]

一切 [illegible] 代嘆也

鹿の聲 [illegible]

[illegible]

ちる [illegible]

紫の唐紫 紫の唐紫 [illegible]

[illegible]

物[illegible]

[illegible]

[illegible]

呵ゝ　呵ゝの事也　呵呵と呵ゝ二匁隔うろこ
わさ時ゝ五匁ゐるうろ多時ゝ
日下巻うろ

忘

繪ふく草木　牡丹　他色色

うろこ　そのゆへ　ハ橋を張うる事ハ墨也　紅
葉をうくハ梅うる　紙ハ墨也
とゆへうろ　物うろ二匁時と
云　流不淀　地ゐうる
抱す

忘　ひそめ　ひ〻こ紙ハ間み
文をうる也　てをうる〻〻

ひ

ひるろ　紙也　ひるろ
もはとたゝ　きハ紙ゐうる
をらうる

君と陸　かくゆへうる人と云
くのみ〻〻か
ひとの
地圖　ゐれる
人と云
まうる二匁
時匁
まうる二匁時匁
ゐる事
人情うる

榎　ひかゝ　ひちゐれみ
ゝさよ　てひめ二有
てもゐをうへて
匁

同上　昼　不時ゝ付
てゝ〻ゐ

同上　朝作　ひタ附
ゐ
なと　五匁時也
物附日ゐと有
をうる

同上　ゐ　ハ二匁
年ゐ長ゐ　日をうる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

姫ゆうはなけれハ
へき歟

夾うゑ新古物語の新二ゐ煙

夾ゆうゑ弧夾屋夾不有
夾のうゑ弧夾屋夾不有
ゐ夾の外也此ありを
姫ゆうと　夾ゆうゑ

こゆうゑ
たゆうゑの古ゑ入

接原　なゆうゑの百
顔ゆうゑ

一葉　ゆう相柳　ゆうゑ柳
如此ゆうゑ柳ゆう
ちゆうゑもゆうゑ
なれゆうゑ

一ちゆう　此一てゆうゑ
ゆうゑ此ゆう

申也七月十五日六百ゆうゑハ
いよいよゆうゑ

ゆうゑ

一葉乃船　接也　此接ゆうゑ
接ゆうゑ

一夏　ゆうゑハ此終数　此終
終数也一夏ゆう
終也

河さのゆうゑ
河也

一村　此所の心ゆうゑ
なゆうゑ

二ゆうゑ　ゆうゑ而ゆう一
ゆうゑ也　余此数

ゆうゑハゆう賛ゆう江用之差別
ゆうゑ此ゆうゑ新武
ゆうゑ一菴一ゆうゑ
ゆうゑ賛ゆうゑ心ゆう
ゆうゑ　此一点ゆう一月ゆう
ゆうゑ一也人ゆう也　気
ゆうゑ人ゆう

ひとえ　衣　二白　きぬ　衣　ひとえ　衣　ひとえ　衣　ひとえ

新ケ原の山新
新

ひさかたの海の[illegible]

すひて[illegible]種の[illegible]二百[illegible]の山の
酒一度の一[illegible]の他准し
ひ[illegible]
[illegible]紅の心の[illegible]
[illegible]

も

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

二白嗅[illegible]

[illegible]

紅葉の文雪[illegible]二白嗅[illegible]

[illegible]

紅葉とあらてその折に

[illegible]

紅葉の葉一[illegible]

[illegible]

[illegible]

紙也 百千鳥 哥
のりらの島の所
者るゝ不限
すに添
鴨の草紙 徒也 林
るれ て ハ 文
ゝ爭 い ゝ 冬 ゝ
武士 ゝ ゝ 人 ゝ
も て ゝ て ハ 二 白 嫌 ゝ
ゝ ハ 不 若 ゝ ら ゝ 流 ゝ
ゝ 二 白 ゝ
も 絲 ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ 定 す
も ゝ ゝ ゝ ゝ

ゝ ゝ ゝ 和 ゝ ゝ ゝ ゝ
嫌也 襟 ゝ ゝ ゝ ゝ
二 白 ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
物名 ゝ ゝ 和 ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ

他

濃し

もの　一銭ハ上白布一疋ニ付

せ

関　此一名西一京一名林とも
林くの名也西ハ陸奥国一名也
或の河也西ハ陸奥国一名也
一京四要方
内名に一名
八ツ上三
ありり

関屋　関屋の戸
地獄ものこゆるしわるくも
何ハ悪西ハ二百ばかりなり
関　西ハ陸奥国の名
せくやいの河百銭ありり一

武蔵　武蔵の国ハ
何ハ有て又宮風
推し　他

迫責　ものの不一嫌しめ代

なる事ハいはきしこう
準し

輝 ハ一日晩とわを嫌ふ
ものゝ発
ちすゝを面
ちをへゝめ
面をいろ

せんとゝ河とすゝゝ河
もなくのゝ二白姫ゝ
他準
し

す

信吉姫 名石ゝ
也ゝ
をれといひて
以前ゝも
以石ハ
以地

駿河の海 ゝ国の名
二白姫也
ゝ二名石ハ
ゝこ本ゝ海へ
三白嫁ハ

ハゝゝゝゝ
不ゝ
ゝ

赤ハ山 名石也 桂ゝ
赤のゝ
ゝ山新
ゝ

扶 ゝ心の扶又ゝ中扶
ハ
ゝ
ゝ代準

管 れ遇ゝ
ゝ

蓑笠

爰業ゝ
ゝ新
ゝ

すゝ ハ一ゝ花一すゝ
ゝ
ゝ

一以上三
ゝ

すき みか花
ゝ

ゝ

す 草ハ新
ゝ平

ゝ
ゝ
ゝ

すそ野　すそ野ハ二百歩ばかり
すその山ばたをもかこむ用
ばを

栖　庶西に二百歩ばかり低らか
なるもの二百歩ばかりの高
うへ出る
ありの
とらなるうへ用捨すべ
なしいつれ

栖の軒　栖　なるらひて庶
軒ゆきの戸ばそをもらひて
ハ庶西ハ二百ばかり庶西に二
百の栖しかはしきこと庶
西のしたのてうこれ百歩
すの西弁　日庶西ハ打越を
出るきらひ　歩也他のやうハ
欲

栖　のかりてに
ばかりてハ

栖　庶西ハ
遠ハ打越ばかりを
いるとらうす出事
ハ

すれて　すれてこれをあらはすこと
ばかりをもとりこれ
ばかりをもとりこれ
ばかりをもとりこれ

源 [illegible]

源 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

中
[illegible]
[illegible]
[illegible]